

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和3年度4～5月号

○ 4月の概要

(1) 令和3年4月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,588億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+0.5%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,554円（伸び率▲10.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,753億円（伸び率+14.1%）薬剤料が4,822億円（伸び率▲3.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が976億円（伸び率+6.1%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,581円（伸び率▲15.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.78種類（伸び率▲3.9%）、28.1日（伸び率▲5.2%）、71円（伸び率▲7.6%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,849億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲203億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の682億円（伸び幅▲2億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+25億円（総額430億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,849 億円 (▲203 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(682 億円)	21 循環器官用薬 (655 億円)	11 中枢神経系用薬 (601 億円)
0歳以上 5歳未満	22.1 億円 (+1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (8.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.8 億円)	61 抗生物質製剤 (3.4 億円)
5歳以上 15歳未満	78.4 億円 (+3.8 億円)	44 アレルギー用薬 (31.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (22.5 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.5 億円)
15歳以上 65歳未満	1,363 億円 (▲37 億円)	11 中枢神経系用薬 (283 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(255 億円)	21 循環器官用薬 (198 億円)
65歳以上 75歳未満	934 億円 (▲43 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(200 億円)	21 循環器官用薬 (182 億円)	42 腫瘍用薬 (140 億円)
75歳以上	1,451 億円 (▲129 億円)	21 循環器官用薬 (271 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(219 億円)	11 中枢神経系用薬 (196 億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,554円（伸び率▲10.9%）で、最も高かったのは高知県（11,461円（伸び率▲7.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,942円（伸び率▲7.9%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは鹿児島県（伸び率▲3.6%）、最も低かったのは東京都（伸び率▲16.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.42）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	82.4 %	+1.7 %
薬剤料ベース	20.2 %	+1.9 %
後発品調剤率	78.0 %	+1.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.4 %	+3.8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.43~44）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+6.1 %	+33.9 % (0歳以上 5歳未満)	▲2.4 % (65歳以上 70歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	29.4 % (100歳以上)	11.9 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.4 %	87.1 % (100歳以上)	75.0 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.49~53）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	839 億円 (+40 億円)	21 循環器官用薬 (245 億円)	11 中枢神経系用薬 (137 億円)	23 消化器官用薬 (106 億円)
0歳以上 5歳未満	8.0 億円 (+2.6 億円)	44 アレルギー用薬 (4.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	61 抗生物質製剤 (0.7 億円)
5歳以上 15歳未満	15.9 億円 (+1.7 億円)	44 アレルギー用薬 (10.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.5 億円)
15歳以上 65歳未満	279 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (55 億円)	44 アレルギー用薬 (40 億円)
65歳以上 75歳未満	203 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)
75歳以上	334 億円 (+20 億円)	21 循環器官用薬 (100 億円)	11 中枢神経系用薬 (58 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.58~63）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,415 円	1,823 円(北海道)	1,163 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲6.0%	+2.6 % (徳島県)	▲12.5 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.4 %	89.9 % (沖縄県)	78.7 % (東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	23.8 % (鹿児島県)	17.3 % (京都府)
後発医薬品調剤率	78.0 %	84.2 % (沖縄県)	73.0 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.4 %	67.1 % (沖縄県)	55.2% (東京都)

○ 5月の概要

- (1) 令和3年5月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は5,877億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+5.5%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,386円（伸び率▲6.8%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,581億円（伸び率+15.8%）薬剤料が4,285億円（伸び率+2.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が859億円（伸び率+11.1%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,465円（伸び率▲10.4%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.76種類（伸び率▲0.2%）、27.5日（伸び率▲3.7%）、72円（伸び率▲6.8%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,422億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+46億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の613億円（伸び幅+46億円）で、伸び幅が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の+46億円（総額613億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,422 億円 (+46 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(613 億円)	21 循環器官用薬 (582 億円)	11 中枢神経系用薬 (541 億円)
0歳以上 5歳未満	19.3 億円 (+6.3 億円)	44 アレルギー用薬 (7.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.3 億円)	61 抗生物質製剤 (3.0 億円)
5歳以上 15歳未満	66.8 億円 (+5.5 億円)	44 アレルギー用薬 (24.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (20.8 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.3 億円)
15歳以上 65歳未満	1,223 億円 (+47 億円)	11 中枢神経系用薬 (259 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(232 億円)	21 循環器官用薬 (177 億円)
65歳以上 75歳未満	826 億円 (+22 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(179 億円)	21 循環器官用薬 (160 億円)	42 腫瘍用薬 (124 億円)
75歳以上	1,287 億円 (▲35 億円)	21 循環器官用薬 (240 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(196 億円)	11 中枢神経系用薬 (172 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,386円（伸び率▲6.8%）で、最も高かったのは高知県（11,287円（伸び率▲6.1%））、最も低かったのは佐賀県（7,900円（伸び率▲4.1%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは長崎県（伸び率▲2.4%）、最も低かったのは千葉県（伸び率▲8.9%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.42）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	82.4 %	+1.7 %
薬剤料ベース	20.0 %	+1.6 %
後発品調剤率	77.8 %	+2.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.3 %	+3.8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.43~44）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+11.1 %	+66.0 % (0歳以上 5歳未満)	+3.9 % (65歳以上 70歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.0 %	29.2 % (100歳以上)	11.6 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.4 %	86.8 % (100歳以上)	75.2 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.49~53）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	737 億円 (+71 億円)	21 循環器官用薬 (218 億円)	11 中枢神経系用薬 (123 億円)	23 消化器官用薬 (94 億円)
0歳以上 5歳未満	6.8 億円 (+3.7 億円)	44 アレルギー用薬 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	12.4 億円 (+1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (7.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.2 億円)
15歳以上 65歳未満	245 億円 (+17 億円)	21 循環器官用薬 (62 億円)	11 中枢神経系用薬 (50 億円)	44 アレルギー用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	179 億円 (+18 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	23 消化器官用薬 (22 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)
75歳以上	294 億円 (+31 億円)	21 循環器官用薬 (89 億円)	11 中枢神経系用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (44 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.58~63）

	全国	最高	最低
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,372 円	1,785 円(北海道)	1,151 円(佐賀県)
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.8%	+3.7 % (秋田県)	▲5.1 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.4 %	89.7 % (沖縄県)	78.7 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.0 %	23.7 % (鹿児島県)	17.0 % (京都府)
後発医薬品調剤率	77.8 %	83.2 % (沖縄県)	73.0 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.3 %	66.8 % (沖縄県)	55.2 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年5月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。